



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和7年6月30日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



自分の考えをもつ

校長 山崎 隆

イソップ物語に「ロバを売りに行く親子」という話があります。ある親子がロバを引いて町に売りに行く途中、それを見た人々から「間抜けな親子だな。ロバに乗れば楽なのに。」と言われます。それを聞いて息子をロバに乗せてしばらく歩いていると、「年寄りを歩かせるなんてひどい。」という声が聞こえてきます。息子を降ろして親が乗れば、「子供を歩かせるなんてひどい。」と言われます。今度は二人で乗り、「ロバに二人も乗るなんてひどい。二人でロバを担げばいい。」と言われてロバを棒で担いで町に向かうという内容です。最後は、棒で担がれたロバが苦しくなって暴れて逃げてしまうのですが、親子は人々の言うがままに行動し、自分の考えをもたなかったために大事なロバを逃がしてしまうという教訓的な物語です。

ある日の6年生の社会科では、区内循環バス「すみまるくん」のこれからを考える授業が行われていました。1億8000万円の予算をかけた区内循環バスの収支率が低下している現状を区報「すみだ」の記事で知った子供たちが「すみまるくんがこれからも運行し続けるためにどのようなことができるだろうか」という学習課題をもち、そのアイデアを思い思いにノートに書いていました。その際に6年生社会の教科担任・五関主幹教諭は、「自分の考えをノートに書きましょう。考えが書けた人はその根拠も書けるといいですね。」と子供たちに声掛けしていました。

ノートは黒板に書かれたことを写すだけでなく、考えながら書いたり書きながら考えたりする学習用具です。1年生の前半はノートの書き方を学びながら文字や数字をマス目に合わせて書いていきますが、学年が進むにつれて文字だけでなく絵や図で自分の考えを表したり、友達と考えを共有することで新たに考えたことや気付いたことを付け足したりできるように、学年や教科に応じたノート指導を行っています。高学年になると、色分けしたり見出しを付けたりして見やすくわかりやすい自分だけのオリジナルノートを仕上げる子もいます。また、学習を振り返って学んだ感想やわかったこと、もっと学びたいことなどを書くことで、後日見返した際に自分が何を考えたのか何を学んだのかが刻まれている学習の足跡にもなっています。

2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」（2021年1月 中央教育審議会答申）では、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が示されました。子供一人一人の能力・適性・興味関心等を活かして、子供自身が課題や学び方を選んだり試したりしながら学習を進めることがより重視されるわけですが、学習者である子供自身が自分の学習を「個別最適な学習」にしていくためには、子供が自分の学びを選択したり決定したりする経験が大切です。また、自分の学習を振り返り、見通しをもったり改善したりする自己評価の力も必要となります。その自己選択・自己決定・自己評価の最初の一步となるのが「自分の考え」をもつことです。

また、「自分の考え」をもつこと、互いの考えを認め合うこと、そして互いの考えを伝え合い学び合うことは社会生活を送るうえで、生きて働く力の基本です。各教科、特別の教科・道徳、総合的な学習の時間、特別活動等すべての学習の機会をとらえて、学年の発達の段階に応じて意図的・計画的に指導する必要があることを教員一同再度認識して教育に当たっていきたいと考えます。